

## 登山道安全管理を目的とした情報共有コンテンツ開発に関する研究 (R6~R8)

### 背景 富士山の特性と現状

- ◆ 火口域が広く現象の進行も速いため、迅速な避難を求められる**活火山**
- ◆ 多くの登山者が**夜間**に行動する上、高い割合を占める**初心者・外国人**

より迅速且つ正確な対応が求められる山

※ 先行研究 (R3成長戦略) 等に基づく通信プラットフォーム整備後に活用するコンテンツの開発

### 目的 迅速な情報伝達・共有と的確な避難誘導の実現

- ◆ キーパーソンとなる**遭難対応・避難誘導者**への働きかけ
  - ※ 実際にお客さんを避難させるのは山小屋スタッフや登山ガイド
  - ※ 山小屋スタッフや登山ガイドらに正確な情報を迅速に届けることが重要
  - ※ 令和5年度より、山小屋スタッフが富士吉田市の機能別消防団員に任命
- ◆ **スムーズな情報共有**に必要な要素
  - ※ システム側: 「誰にでも」5W1Hが即座に伝わること
  - ※ 利用者側: 平時からの利用で操作に習熟し、緊急時にも運用できること

通信プラットフォームを活用し、情報提供のモニタリングを実施

### 研究内容 情報共有のためのコンテンツ整備

1. 実証実験の**詳細決定**と整備済み設備の稼働状況を検証
  - ※ 整備予定の通信網を一部活用
2. 登山道管理情報共有のための**コンテンツ整備**
3. 実証実験を通しての**コンテンツ・ツールのブラッシュアップ**
4. アプリ・システムの将来設計・必要要件の整理
  - ※ ガイドや山小屋等からのフィードバックによって必要な機能を備えたコンテンツ・ツールを整備し、最終的な避難誘導のためのシステムを設計

1年目

2年目

3年目

1. 実験の詳細決定

2. コンテンツ整備

3. 実証実験とコンテンツのブラッシュアップ

4. アプリ・システムの設計

共同研究機関: 東京大学、山梨大学、富士山チャレンジPF、ヤマレコ

### 期待される効果 安心・安全な富士山の実現へ



色によるステータス表示やGISを利用した情報交換により事態の把握に時間をかけさせないコンテンツを整備する

★ 本研究によって**噴火時に活用する情報共有システム**に実装されるべきコンテンツ及び将来開発するべきアプリの全体像・設計を明確にする。また、開発コンテンツを平時の災害等(落石、雪崩等)に利用することで情報共有方法の習熟を図る。

※ 研究成果を踏まえ、IT事業者や観光事業者によるMapチャットサービスなど、暴風雨や滑落事故時等にも有効な登山者等情報共有システムの開発により、世界トップレベルの安全登山を標榜することができる。